

履歴と業績

内藤正典

生年月日 1956年(昭和31年)9月29日

現職 一橋大学大学院社会学研究科教授(地球社会研究講座)

【学歴】

1975年(昭和50年)3月 東京教育大学附属駒場高等学校卒業

1975年(昭和50年)4月 東京大学教養学部理科二類入学

1979年(昭和54年)3月 東京大学教養学部教養学科 科学史・科学哲学分科卒業

1979年(昭和54年)4月 東京大学大学院理学系研究科地理学専門課程進学

1981年(昭和56年)3月 同修士課程修了

1981年(昭和56年)4月 同博士課程進学

1981年(昭和56年)4月 同博士課程休学、シリア・アラブ共和国、ダマスカス大学大学院地理学専攻に留学(1982年(昭和57年)3月まで)、引き続き1982年8月～83年7月同大学留学。

1982年(昭和57年)4月 東京大学大学院理学系研究科地理学専門課程博士課程復学

1982年(昭和57年)5月 同退学

【学位】

教養学士(東京大学) 1979年(昭和54年)3月

理学修士(東京大学) 1981年(昭和56年)3月

社会学博士(一橋大学) 1997年(平成9年)11月

【職歴】

1982年(昭和57年)5月 東京大学教養学部助手(人文地理学講座)に採用される。

1986年(昭和61年)3月 一橋大学社会学部講師に昇任(社会地理学・社会人類学講座)

1989年(平成1年)2月 一橋大学社会学部助教授に昇任、一橋大学大学院社会学研究科担当を命じられる。

1997年(平成9年)4月 一橋大学大学院社会学研究科教授に昇任。現在にいたる。
(地球社会研究講座)(主な担当科目:異なる民族・宗教の共生、国際相関地域論。2002年度より担当科目変更:民族文化共生論、地球社会と文明の対話)

【非常勤講師等】

1983年(昭和58年)4月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員を委嘱される(昭和62年3月まで毎年更新)

1984年(昭和59年)4月 東京外国語大学外国語学部講師に併任される(平成4年3月まで毎年更新)(担当科目:人文地理学)

1986年(昭和61年)4月 東京大学教養学部講師に併任される(昭和61年9月まで)
(担当科目:地域研究論)

1987年(昭和62年)4月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員に委嘱される(平成3年3月まで毎年更新)

1988年(昭和63年)12月 筑波大学講師に併任される(平成1年3月まで)
(担当科目:アジアの地理と風土)

1990年(平成2年)10月 日本学術振興会アンカラ研究連絡センターに派遣研究員として派遣される(平成3年3月まで)

1990年(平成2年)4月 筑波大学講師に併任される(平成3年3月まで)
(担当科目:アジアの地理と風土)

1992年(平成4年)3月 文部省在外研究員若手教官在外研究員としてアンカラ大学政治学部エルンスト・ロイター都市研究センターにて研究に従事する(平成5年1月まで)(用務先での身分は客員研究員)

1993年(平成5年)4月 東京外国語大学外国語学部講師に併任される。東京外国語大学大学院地域文化研究科の担当を命ぜられる(平成11年3月まで毎年更新)
(担当科目:人文地理学研究・地誌論)

1993年(平成5年)10月 東京大学教養学部講師に併任される(平成6年3月まで)
(担当科目:性差文化論)

1994年(平成6年)4月 東京大学教養学部講師に併任される(平成6年9月まで)
(担当科目:性差文化論)

1996年(平成8年)4月 東京大学教養学部講師に併任される(平成8年9月まで)
(担当科目:中東地域文化研究)

1996年(平成8年)4月 東京外国語大学外国語学部講師に併任される(平成9年3月まで)
(担当科目:中東事情特殊講義)

1996年(平成8年)12月 三重大学人文学部講師に併任される(平成8年12月まで、集中講義)(担当科目:アジアの地誌と風土)

1997年(平成9年)4月 東京大学教養学部講師に併任される(平成9年9月まで)
(担当科目:中東地域研究演習)

1997年(平成9年)4月 東京外国語大学外国語学部講師に併任される(平成11年3月まで)
(担当科目:中東事情特殊講義)

1998年(平成10年)9月 京都大学教育学部講師に併任される(平成11年3月まで、集中講義)、教育学研究科の担当を命じられる
(担当科目:比較教育学)

1999年(平成11年)4月~ 恵泉女学園大学人文学部講師を委嘱される
(担当科目:人間移動論、2000年4月より多文化社会論特講 を担当)

2001年(平成13年)9月~2002年3月 三重大学人文学部講師に併任される。

(担当科目:特殊講義 B ヨーロッパ・イスラム世界の相関)

2003年(平成15年)4月～ 東京外国語大学外国語学部講師に併任される。

(担当科目:アジア地域研究)

2004年(平成16年)9月～2005年3月 三重大学人文学部講師に併任される。

(担当科目:特殊講義 B ヨーロッパ・イスラム世界の相関)

2005年(平成17年)4月～ 恵泉女学園大学大学院人文学研究科講師に併任される。

【学会・団体・国際機関等委員】

1997年(平成9年)4月～ 日本中東学会評議員に選出される

2002年(平成14年)10月～2003年(平成15年)3月 参議院第一特別調査室「新しい共存と文明間の対話に関する調査」委員を委嘱される

2002年(平成14年)10月～2003年3月 日本国際問題研究所「9・11以降の欧米関係」研究会委員を委嘱される

2003年(平成15年)2月 日本ユネスコ国内委員会調査委員を委嘱される(任命権者:文部科学大臣)

2003年(平成15年)6月 地中海学会常任委員に選出される

2003年(平成15年7月)ユネスコ、Management of Social Transformation(MOST)アジア・太平洋地域科学諮問委員に選出される(任命権者:ユネスコ事務局長)

2004年(平成16年)7月、(財)中東経済研究所外部委員を委嘱される

【国際会議における招待講演・議長等】

2002年(平成14年)3月 文部科学省科学技術専門家としてパリ・ユネスコ本部に派遣され、ユネスコ・人文・社会科学セクターとの意見交換を行う

2001年(平成13年)8月 国際連合大学・ユネスコ共催の国際会議「文明間の対話」において招待講演、演題「Challenge to the West ? :Awakening of the Muslim Immigrants in the Western Europe」

2002年(平成14年)10月 欧州評議会(Council of Europe)の招聘により「異文化間および異宗教間コミュニケーションに貢献する対話」専門家会議において基調講演、演題「The Role of Religion in the 21st Century」

2003年(平成15年)2月 文部科学省の派遣によりユネスコ、社会変容に関するマネジメント(MOST)政府間理事会に日本政府代表として出席

2003年(平成15年)10月、外務省およびバハレーン外務省主催による「第二回イスラム世界との文明間対話セミナー」にディスカッサントとして出席、報告

2004年(平成16年)2月、国際交流基金主催「日本と中東・イスラム諸国の共生の時代」においてオーガナイザーおよびモデレーターを務める。

2004年(平成16年)5月、UNESCO主催「日本、アラブ間の文明間対話」国際会議において招待講演

2004年(平成16年)7月、UNESCO、MOST、科学諮問会議(SAC)会合にアジア・パシフィック地域選出科学諮問委員として出席

2004年(平成16年)7月、国際交流基金主催、中東と日本のシンクタンクの知的交流シンポジウムにディスカッサントとして出席

2005年(平成17年)1月、一橋大学 COE プログラム『ヨーロッパの革新的研究』発足記念シンポジウム主催、講演。演題『Enlargement or Transformation: The fundamental problems Europe faced with』

2005年(平成17年)3月、国際宗教学・宗教史学大会において、パネリストとして講演『Behind the Veiling Issues』

2005年(平成17年)5月、トルコ戦略研究所主催国際シンポジウムにおいて招待講演『Risk Elements in the Information Society』

【国内学会・シンポジウム等における招待講演・議長等】

2000年(平成12年)7月 経済団体連合会日本トルコ経済委員会にて招待講演、演題「ユーラシアの盟主をめざすトルコ」

2000年(平成12年)7月 帝塚山学院大学国際理解研究所・大阪府狭山市との共催による公開講座(EUを知る)で招待講演。演題「EUの移民政策」

2000年(平成12年)9月 麗澤大学国際研究センターにおいて講演

2001年(平成13年)2月 杉並区国際交流協会において招待講演、演題『東西文明の十字路口トルコ』

2001年(平成13年)3月 東京工業大学において三大学連合海外協力コース設置記念講演、「西欧とイスラーム～文明間の対話」

2001年(平成13年)3月 外務省・文部省後援中東調査会主催講演会「いまなぜイスラームか」においてパネリストとして参加

2001年(平成13年)5月 麗澤大学文化講演会において招待講演「西洋とイスラーム：文明間の対話の可能性」

2001年(平成13年)9月 厚生労働省外国人雇用問題研究会において講演、演題「移民労働者の受け入れに伴う文化摩擦～EU諸国におけるイスラーム教徒移民の文化・社会統合の諸問題を中心に」

2001年(平成13年)10月 国立文化財研究所において招待講演、演題「イスラーム社会と文化の構造」

2001年(平成13年)11月 恵泉女学園創立72周年記念式典にて招待講演、演題「イスラームとの共生」

2001年(平成13年)11月 日本国際問題研究所において講演、演題「ムスリムの反応 - アフガ

ニスタンへの軍事行動とイスラーム脅威論」

2002年(平成14年)2月 埼玉大学教育学部学術講演会において招待講演、演題「イスラム社会の基盤 - 人と価値観」

2002年(平成14年)4月 朝日カルチャーセンター横浜特別講演会において講演

2002年(平成14年)5月 日本中東学会第18回年次大会公開シンポジウム「日本のなかのムスリム社会」において招待講演、演題「西ヨーロッパのムスリム移民～共生の課題とは何か」

2002年(平成14年)5月 三重大学留学生センターにおいて招待講演、演題「イスラームとの共生～私たちは何を知らなくてはならないのか」

2002年(平成14年)6月 日本大学文理学部公開講演会において招待講演、演題「ヨーロッパのイスラーム」

2002年(平成14年)7月 町田市教育委員会において講演、演題「イスラームとの共生」

2002年(平成14年)11月 日本中東学会公開講演会において招待講演、演題「ヨーロッパのイスラーム～対話のための課題」

2003年(平成15年)4月 日本国際問題研究所において講演、演題「近隣国トルコの視点」

2003年(平成15年)5月 朝日カルチャーセンター講座「ヨーロッパ統合を考える」

第3回「ヨーロッパのイスラーム」講師

2003年(平成15年)6月 西武コミュニティカレッジにおいて講演、演題「現代トルコの社会」

2003年(平成15年)6月中野区もみじ山文化セミナーにおいて講演、演題「現代トルコの政治と社会～イスラームと西欧のはざままで」

2003年(平成15年7月)WATARIIUM 美術館において、中東を知る「西洋とイスラムの文明間の対話～障壁と可能性」と題して講演

2003年(平成15年)7月 朝日カルチャーセンター講座「ヨーロッパ統合を考える」

第8回「ヨーロッパ統合とトルコ」講師

2003年(平成15年)10月、まちだ市国際学市民講座で講演、演題「ヨーロッパとイスラーム」

2003年(平成15年)10月、玉川大学において招待講演、演題「イスラームとの共生」

2004年(平成16年)1月、朝日カルチャーセンター公開講座「トルコの人・社会・国際関係」講師

2004年(平成16年)4月、日本工業倶楽部において招待講演、演題「イスラームとはなにか」

2004年(平成16年)5月、朝日カルチャーセンターにおいて公開講座「ヨーロッパとイスラーム」

2004年(平成16年)6月、まちだ市国際学市民講座で講演、演題「ヨーロッパとイスラームの共生」

2004年(平成16年)10月、日本工業倶楽部にて招待講演「イスラーム・テロの構造と抑止」

2004年(平成16年)10月、拓殖大学国際塾において講演「トルコをめぐる国際関係」

2005年(平成17年)1月、日本・トルコ協会において招待講演。演題『中東民主化とトルコ、日本が見据えるべきこと』

2005年(平成17年)1月、同志社大学一神教研究センターにおいて講演。演題『トルコのEU加盟問題』

2005年(平成17年)3月、山口大学において講演。演題『ヨーロッパのイスラーム社会』
2005年(平成17年)4月、朝日カルチャーセンターにおいて『中東民主化とトルコ』講師
2005年(平成17年)5月、国際交流基金中東理解講座『グローバル化するイスラーム:ヨーロッパ』においてオーガナイザー・講師
2005年(平成17年)6月、法政大学国際文化学部において招待講演、演題『ヨーロッパとイスラーム:トルコのEU加盟をめぐる』
2005年(平成17年)6月、日本記者クラブにおいて招待講演、演題『欧州と中東』

【テレビ出演等】

2003年(平成15年)2月7日、NHK教育テレビ、「教育セミナー・世界くらしの旅」講師として出演、番組タイトル『イスタンブール、東西文明の交差点』
2003年(平成15年)5月21日 NHK教育テレビ、「教育セミナー・世界くらしの旅」講師として出演、番組タイトル『アラビア半島、沙漠とオアシス』
2003年(平成15年)9月17日 NHK教育テレビ、「教育セミナー・世界くらしの旅」講師として出演、番組タイトル『難民問題に取り組む』
2003年(平成15年)10月1日 NHK教育テレビ、「教育セミナー・世界くらしの旅」講師として出演、番組タイトル『服飾、伝統とグローバル化』
2003年(平成15年)11月5日 NHK教育テレビ、「教育セミナー・世界くらしの旅」講師として出演、番組タイトル『資源、持つ国・持たない国』
2003年(平成15年)11月19日 NHK教育テレビ、「教育セミナー・世界くらしの旅」講師として出演、番組タイトル『国境を越えた人々』
2003年(平成15年)12月10日 NHK教育テレビ、「教育セミナー・世界くらしの旅」講師として出演、番組タイトル『イスラム世界、統一と多様性』
2004年(平成16年)2月11日 NHK教育テレビ、「教育セミナー・世界くらしの旅」講師として出演、番組タイトル『ベルリン、多文化の共存』
2004年(平成16年)2月5日 NHK『BSニュース、きょうの世界』にコメンテーターとして出演
2004年(平成16年)2月17日 NHK『BSニュース、きょうの世界』にコメンテーターとして出演
2004年(平成16年)5月 NHK教育テレビ『高校講座地理 中東』に講師として出演
2004年(平成16年)6月 NHK教育テレビ『高校講座 石油資源』に講師として出演
2004年(平成16年)6月 NHK『BSワールド・リポート』「オランダのアパルトヘイト教育」にコメンテーターとして出演
2004年(平成16年)7月14日、NHK教育テレビ『高校講座 ファッションからみる世界』講師として出演
2004年(平成16年)7月 NHK『BSニュース、きょうの世界』にコメンテーターとして出演
2004年(平成16年)11月4日、NHK『BSニュース、きょうの世界』にコメンテーターとして出演(アメリカ大統領選挙)

2004年(平成16年)11月、NHK教育テレビ『高校講座地理、難民問題を考える』に講師として出演

2004年(平成16年)11月、NHK教育テレビ『高校講座地理、国境を越えた人々』に講師として出演

2004年(平成16年)12月、NHK教育テレビ『高校講座地理、イスラーム～統一と多様性』に講師として出演

2004年(平成16年)11月20日、NHK,BS-1『世界潮流2004、ゆれる中東民主化』に司会者として出演

2004年(平成16年)12月16日、NHK総合テレビ『クローズアップ現代』にコメンテーターとして出演。テーマ:トルコのEU加盟問題(パリから衛星中継)

2004年(平成16年)12月27日、NHK,BS-1『BSニュース、きょうの世界』特集「ヨーロッパこの一年」にコメンテーターとして出演

2005年(平成17年)2月16日、NHK教育テレビ『高校講座地理、アムステルダム～異文化の共存』に講師として出演

2005年(平成17年)5月18日、NHK教育テレビ『高校講座地理、中東～都市と砂漠のネットワーク』

【留学・長期派遣等】

1. 野間アジア・アフリカ奨学金第二回奨学生(1981年～83年:シリア・アラブ共和国ダマスカス大学)
2. 日本学術振興会アンカラ地域研究連絡センター派遣研究員(1990年～1991年:トルコ共和国アンカラ)
3. 文部省在外研究員若手教官在外研究員(1991年～92年:アンカラ大学政治学部)

【短期海外学術調査および海外学会発表】

1982年 エジプト、カタラ・オアシス等において、乾燥地域の水資源管理および沙漠化に関する調査

1984年 シリアのダマスカス・オアシスにおける沙漠化問題の実態調査。ヨルダンのアンマン、エジプトのカイロにおいて都市社会構造の調査。国際地理学会(パリ)において乾燥地域の水資源管理と沙漠化問題について報告、シュツトガルトにおいてワーキンググループ(乾燥地域における水資源管理)において報告

1986年 シリアのアレッポ、トルコのアンカラ、イスタンブル、イズミル、ガジアンテプ、ウルファ、デュアルバクル、マルディン、エルズルム、トラブゾンなどで都市社会構造に関する調査。スペイン、バルセロナにおいて国際地理学会地域大会に出席、発表

1987年 トルコ各都市において都市社会構造に関する調査

1988年 イギリス、ロンドン、ダラム、シェフィールドにおいて日英地理学会出席、発表

- 1989年 ドイツ、ベルリンおよびケルンにおいてトルコ系移民の社会問題に関する調査
- 1990年 ドイツ、ベルリン、ケルンおよびトルコにおいてトルコ系移民の政治社会問題に関する調査
- 1991～92年 トルコ、アンカラにおいて、トルコ系移民問題に関する調査(アンカラ大学政治学部において長期研究)、ドイツのミュンヘン、フランスのストラスブールにおいてトルコ系移民の政治社会問題に関する調査
- 1993年 ドイツ、ベルリン、ケルン、においてトルコ系移民の社会構造に関する調査。トルコにおいて社会構造と政治変動に関する研究
- 1994年 ドイツ、ベルリン、ケルン、デュイスブルク、ミュンヘンにおいて、トルコ系移民のイスラーム復興運動に関する調査、トルコにおいて地方農村の社会構造について研究
- 1995年 ドイツのベルリン、ケルン、オランダのアムステルダムにおいて、ムスリム移民のイスラーム復興運動に関する調査、トルコにおいて政治変動とイスラームの関係について研究
- 1996年 ドイツのベルリン、オランダのアムステルダム、フランスのパリにおいて、ムスリム移民のイスラーム復興運動に関する実態調査、トルコにおける政治・社会変動に関する研究
- 1997年 ドイツのベルリン、スウェーデンのストックホルム、フランスのパリ、トルコのアンカラにおいてトルコ系移民問題の研究および調査
- 1998年 ドイツのベルリン、オランダのアムステルダム、イギリスのロンドンにおいてムスリム移民の政治動向に関する調査。、フランスのパリ、トルコのアンカラ、イズミルにおいてトルコ系移民問題とトルコの国際関係に関する調査・研究
- 1999年 トルコのイズミルおよびアンカラにおいて、社会構造の変化に関する調査。ウズベキスタンにおいて、イスラーム復興と国家建設の関係に関する予察的調査
- 2000年 ベルリンにおいて、トルコ系イスラーム組織に活動実態に関する調査。トルコのイズミルにおいて社会構造に関する調査
- 2001年 トルコのイズミルおよびアンカラにおいてトルコの政治変動に関する研究、パリにおいてムスリム移民のイスラーム復興運動に関する調査。オランダのアムステルダムおよびフランスのパリにおいて、9・11に対する西欧諸国の反応についての調査
- 2002年 トルコのイズミル、イスタンブル、アンカラにおいて、イラク戦争前の社会状況および公正発展党政権樹立の影響に関する研究・調査
- 2003年 ドイツのベルリンにおいて、9・11以降のヨーロッパ社会とイスラームの関係に関する調査、トルコのイズミル、アンカラにおいて、イラク戦争後のトルコ社会の西洋およびイスラームに関する世論動向の変化に関する調査。アゼルバイジャンのパキューにおいて、同国の政治経済動向に関する予察的調査。スペインおよびポルトガルにおいて、移民流入動向およびイラク戦争に関する世論動向に関する調査。
- 2004年 トルコのイズミルおよびアンカラにおける社会構造の変化に関する調査。イタリアのフィ

レンツェにおける移民流入動向に関する予察的調査。オランダ、ベルギー、フランス三国において、ヨーロッパとイスラームの関係に関する政治動向調査。およびトルコの EU 加盟問題に関する調査・研究

2005年 フランスのパリにおいて移民街の変容に関する調査。

【競争的研究資金取得状況】(2000 年以降)

1. 『文明の相克におけるメディアの機能～ヨーロッパ諸国におけるイスラーム報道の実態と政治・社会への影響』、旭硝子財団、平成 12 年度、(研究代表者)
2. 『イスラーム社会との共生実現のための基盤研究～日常世界におけるイスラーム的規範と世俗的規範との相克に関する実証分析』、松下国際財団、平成 13 年度、(研究代表者)
3. 『文明間の対話促進のための基盤研究～障壁の分析と可能性の探求』、科学研究費補助金(基盤研究 B2)、平成 13～15 年度、(平成 14～15 年度研究代表者)
4. 『イスラーム的イデオロギー生産による摩擦に関する研究』、文部科学省科学研究費創成的基礎研究「現代イスラーム世界の動態的研究」3 班 b、(研究分担者)、平成 11～13 年度
5. 21 世紀 COE 拠点『ヨーロッパの革新的研究拠点』(拠点副代表)、平成 16 年度～
6. 共生に向けたイスラーム世界との対話促進のための実践的方法の開発、平成 16～17 年度、科学研究費補助金萌芽的研究(研究代表者)

【所属学会】日本中東学会、地中海学会、日本地理学会

【所属協会】日本トルコ協会、中東調査会

【賞罰】

1987 年(昭和 62 年)3 月 日本地理学会研究奨励賞受賞

2004 年(平成 16 年)6 月 トルコ共和国政府より「日本におけるトルコ年」での貢献に対して表彰および銀メダル授与

【研究・教育業績その他】

(著書:単著・共著・編著) 抜粋

ドイツ再統一とトルコ人移民労働者

共著

編者:内藤正典

第1章「東西ドイツ再統一のはざままで:西ドイツのトルコ人移民たちは今」、17～56 ページ、及び第6章「トルコ人移民問題を知るための資料」のうち2.文献と解題、293～311 ページを執筆。

1991年(平成3年)8月

明石書店、331 ページ

トルコのものさし、日本のものさし

単著

1994年(平成6年)2月

筑摩書房、198 ページ

トルコ人のヨーロッパ:共生と排斥の多民族社会

共著

編者:内藤正典

第1章「創りだす共存:ヨーロッパのトルコ人移民をめぐる現実とは何か」、13～60 ページ及び第4章「創られる衝突:多民族共存に挑戦する新たな言説」、287～332 ページを執筆。

1995年(平成7年)1月

明石書店、359 ページ

イスラームに何がおきているか

共著

編者:小杉泰

「国際社会のなかのイスラーム」のうち、「『イスラーム問題』の神話と現実」の章、248～267 ページを執筆。

1996年(平成8年)1月

平凡社、353 ページ

ジェンダーから世界を読む

共著

編者:関啓子、木本喜美子

第2章「ジェンダーとオリエンタリズム:西欧の眼、オリエンタリズムの罫」、41～65 ページを執筆。

1996年(平成8年)4月

明石書店、281ページ

アッラーのヨーロッパ:移民とイスラム復興

単著

1996年(平成8年)5月

東京大学出版会、344ページ

もう一つのヨーロッパ:多文化共生の舞台

共著

編者:内藤正典

第1章「もう一つのヨーロッパ」、2~18ページを執筆。

1996年(平成8年)12月

古今書院、281ページ

絨毯屋が飛んできた - トルコの社会誌

単著

1998年(平成10年)1月

筑摩書房、200ページ

開発と民族問題、岩波講座 開発と文化 4

共著

移民と開発 1、「トルコ人のまなざし」、153~168ページを執筆

1998年(平成10年)1月

岩波書店、282ページ

トルコから世界へ、イスラームと西欧化のはざままで

共著

編者:内藤正典

序、および「いま、トルコから世界へ」、11~42ページを執筆

1998年(平成10年)5月

明石書店、309ページ

「パパ」の国日本、「父親」の国トルコ

単著

1999年(平成11年)4月22日

マガジンハウス、195 ページ

空飛ぶ大学、「文明の衝突」のヨーロッパに行く

共著

編者:内藤正典

1999年(平成11年)6月14日

出窓社、259 ページ

地球人の地理講座6、うちとそと

共著

編者:内藤正典

2-21, 91-108 ページを執筆

1999年(平成11年)12月10日

大月書店、158 ページ

異文化理解の倫理にむけて

共著

編者:稲賀繁美

11. 移民と国民のあいだ、211-230 ページを執筆

2000年4月30日

名古屋大学出版会、345 ページ

現代世界と宗教

共著

編者:中牧弘允

第7章「ヨーロッパのイスラーム復興運動」、149-166 ページを執筆

2000年9月10日

国際書院、294 ページ

なぜ、イスラームと衝突するのか

単著

2002年(平成14年)1月

明石書店、208 ページ

イスラーム辞典

共著(編集協力者、執筆者)

2002年(平成14年)2月

岩波書店

イスラーム世界事典

共著(編集委員、執筆者)

2002年(平成14年)2月

明石書店

岐路に立つ世界を語る～9・11以後の危機と希望

共著

編者:松原正毅、小杉靖、白杵陽

「ヨーロッパのなかのイスラーム」、145-152ページを執筆

2002年(平成14年8月)

平凡社、288ページ

新しい戦争とメディア～9・11以後のジャーナリズムを検証する

共著

編者:内藤正典

「文明の衝突とメディア」7～24ページを執筆

2003年(平成15年4月)

明石書店、283ページ

イラク戦争、検証と展望

共著

編者:寺島実郎・小杉泰・藤原帰一

「非対称の戦争」を忘れたアメリカと中東再植民地化の危機、75～81ページを執筆

2003年7月

岩波書店、338ページ

イラク問題と日本人

共著

9・11以降のヨーロッパとイスラーム、102～103ページを執筆

2004年5月

中東調査会編

明石書店

イスラーム地域研究叢書第1巻:イスラーム地域研究の可能性

共著

編者:佐藤次高

2003年(平成15年)11月

異文化のなかのイスラーム～ヨーロッパにおけるムスリム社会の研究、135～158ページを執筆
東京大学出版会

イラク戦争データブック

共著

編者:山内昌之・大野元裕

イラク戦争後のトルコ 二項対立を超越した外交戦略、112～115ページを執筆

2004年7月

明石書店

ヨーロッパとイスラーム～共生は可能か

単著

岩波書店・岩波新書

2004年8月

207ページ

(論文)

1. 近世農村における肥培管理技術の成立 - 津軽・田舎館村および伊予・三間村の事例 -

単著

1983年(昭和58年)3月

東京大学教養学部人文科学科紀要 第78輯人文地理学8、91～125ページ

2. 技術の地域性をめぐる一考察 - 近世前期の会津若松近郊における土壌論と肥培管理技術 -

単著

1984年(昭和59年)3月

東京大学教養学部教養学科紀要、第16号、83～102ページ

3. ダマスカスにおける民族・宗教別住み分けとその変容

単著

1985年(昭和60年)3月

東京大学教養学部教養学科紀要、第17号、1～20ページ

4. Water Resource Management in the Oasis of Damascus: Man's Role in Changing Phase of Desertification

単著

1985年(昭和60年)6月

Stuttgarter Geographisches Studien, Band 105, pp.104-113.

5. 農地改革に伴うオアシス農村の変貌 - ダマスカス・オアシス 1958-1984 -

単著

1985年(昭和60年)10月

『経済地理学年報』、Vol.31, No.2, 1~22ページ

6. グータとマルジ - ダマスカス・オアシスにおける都市化と農業の変化 -

単著

1986年(昭和61年)2月

『地学雑誌』、Vol.95, No.1, 27~45ページ

7. A Report on the Present Situation of Irrigation and Agriculture in the Oasis of Damascus 1981-1983,

単著

1986年(昭和61年)3月

Studies in the Mediterranean World Past and Present X, Mediterranean Studies Research Group, Hitotsubashi University, pp.11-58.

8. ダマスカス市周辺における少数集団の定住過程 1946-1986年

単著

1987年(昭和62年)3月

第三世界をめぐるセグリゲーションの諸問題、第8章、161~184ページ

一橋大学社会学部(昭和60-61年度文部省科学研究費補助金総合研究A「大都市におけるセグリゲーションの国際比較研究」課題番号60301107研究成果報告書

9. Crisis of Kufrayn Village in the Oasis of Damascus : Spatial Configuration under the Process of National Integration

単著

1987年(昭和62年)12月

Geographical Review of Japan, Vol.60, No.2, pp.134-163.

10. Al-Khalidiya : Development and Social Formation of a Squatter Settlement on the Urban Periphery of Aleppo

単著

1988年(昭和63年)3月

Mediterranean Studies Research Group, Hitotsubashi University, pp.75-98.

11. From the Walled Inner City to the Urban Periphery : Changing Phases of Residential Separation in Damascus

単著

1988年(昭和63年)12月

Hitotsubashi Journal of Arts and Sciences, Vol.29, No.1, The Hitotsubashi Academy, Hitotsubashi University, pp.55-69.

12. 現代地理学の再検討 - 第三世界研究の視点から - 第1部

単著

1989年(平成1年)3月

『地域学研究』、第2号、駒澤大学応用地理学研究所、21～34頁

13. Urbanization and its Implication on the Socio-economic Structure in the Syrian Cities : A Comparative Study on Damascus and Aleppo

単著

1989年(平成1年)10月

Urbanism in Islam, The Proceedings of the International Conference on Urbanism in Islam (ICUIT), The University of Tokyo, pp.439-460.

14. 地理学における地域研究の方向

単著

1990年(平成2年)4月

『地理』、Vol.35, No.4, 古今書院、33～42頁

15. 湾岸戦争とイスラム勢力の台頭 - セキュラリズムの国家、トルコからの視点 -

単著

1992年(平成4年)3月

JIIA BOOKLET、日本国際問題研究所、No.1、37～47頁

16. 冷戦終焉後の世界と中東・イスラム圏の動向

単著

1993年(平成5年)1月

『歴史と地理』、地理の研究[136]、山川出版社、1～10頁

17. 外国人問題の今日的課題 - 国際社会のなかの日本を知るために -

単著

1994年(平成6年)3月

『地理』、Vol.39、No.3、古今書院、18～25頁

18. 地誌の終焉

単著

1994年(平成6年)3月

『法政地理』、第22号、法政大学地理学会、32～43頁

19. 多民族社会ヨーロッパの光と影 - トルコ人移民問題の現在 -

単著

1995年(平成7年)2月

『海外事情』、Vol.24、No.2、拓殖大学海外事情研究所、32～50頁

20. 異文化理解と地理学

単著

1995年(平成7年)7月

『地理教育』、地理教育研究会、Vol.24、6～15頁

21. Integration or Exile : German Ausländerpolitik and Turkish Migrants

単著

1995年(平成7年)8月

Hitotsubashi Journal of Social Studies, Vol.27, Hitotsubashi Academy,
pp.69-87.

22. 多文化・多民族共生のための研究視角 - 山本健児論文の批判的検討を通して -

単著

1997年(平成9年)11月

『地理学評論』、Vol.70(Ser.A),No.11,日本地理学会、pp.749-766.

23. 地理教育の再興にむけて

単著

1998年(平成10年)6月

『地理・地図資料』、1998.6、帝国書院、1～3ページ

24. 学界展望「政治・社会」

単著

1998年(平成10年)6月

『人文地理』、Vol.50, No.3, 1998、76～78ページ

25. イスラム脅威論の虚像と実像

単著

1998年(平成10年)10月

『一橋論叢』、第120巻第4号、76～95ページ

26. 宗教の違いは文明の衝突をもたらすのか

単著

1999年(平成11年)3月

『岐阜を考える』、1999記念号 No.100、岐阜県産業経済研究センター、80～84ページ

27. EU統合の中のイスラーム

単著

2000年4月

『NIRA政策研究』2000、Vol.13.No.4、総合研究開発機構、22～25ページ

28. 移民大陸ヨーロッパから何を学ぶか

単著

2000年(平成12年)5月

『論座』、5月号、朝日新聞社、96～103ページ

29. EU: イスラーム脅威論と国民国家のはざままで

単著

2000年(平成12年)9月

『世界』、9月号、岩波書店、77～83ページ

30. 父親を切り取った不幸 トルコと日本の家族はなにが違う

単著

2000年(平成12年)9月

『教育と医学』、慶應義塾大学出版会、50～57ページ

31. グローバル・イシューの認識論～難民問題をめぐるグローバル・イシューのローカリゼーション

単著

2001年(平成13年)5月

『情報社会化』に関する国際比較研究、平成10-12年度科学研究費補助金(基盤研究A(2))研究成果報告書、59～74ページ

32. ムスリムの心情と一体性を理解せよ～来るべき「文明の衝突」を避けるために

単著

2001年(平成13年)12月

『論座』、朝日新聞社、106～121ページ

33. イスラムはこの戦争をどう見ているか

単著

2001年(平成13年)12月

『世界』岩波書店、75～80ページ

34. イスラムの世界観 この戦争が顕在化させたもの

単著

2001年(平成13年)12月

『ACADEMIA』No.71、全国学士会、26～29ページ

35. *Role of Religion in the 21st Century, Prevention of Crisis among Civilizations*

単著

2002年(平成14年)10月

Intercultural Dialogue and Conflict Prevention Project, Expert Colloquy, Dialogue serving Intercultural and Interreligious Communication, Strasbourg, 7-9 October 2002, Council of Europe, 8ページ

(英文オリジナルの仏語訳)

Le rôle de la religion au 21^e siècle. Prévention des crises entre civilisations

単著

2002年(平成14年)10月

Comite Directeur de la Culture, Projet Dialogue Interculturel et Prevention des Conflits, Conseil de l Europe, 8p

36.イスラーム・テロ発生の構造要因と抑止対策

単著

2003年(平成15年3月)

『9・11以降の欧米関係』平成14年度外務省委託研究報告書

日本国際問題研究所、62～75ページ

37. 勝てない戦争の行方～アメリカは何を見誤ったか

単著

2003年(平成15年4月)

『現代思想、4月臨時増刊、総特集 イラク戦争』、108～113ページ

青土社

38. 中東地域とイスラーム文化～社会の基底をなす価値観

単著

2003年(平成15年11月)

地理月報、No.477号

二宮書店

39. 多文化社会における異文化との共生～ヨーロッパの半世紀から何を学ぶか

単著

2004年(平成16年11月)

国際交流・国際協力・多文化共生活動の現状と課題、名古屋国際センター、7～13ページ

40. 中東民主化とイスラーム 西欧はなにを見誤っているのか

単著

2005年(平成17年)1月

中東協力センターニュース、2004/2005、12/1、54～58ページ

(財)中東協力センター

(エッセイ、新聞への寄稿、インタビュー) 抜粋

石原発言「支持」の意味するもの

2000年(平成12年)5月17日付

朝日新聞『論壇』

対談：蔓延する日本の排外主義(姜尚中との対談)

共著(姜尚中)

2000年(平成12年)10月号、『世界』、10月号、90～99ページ

岩波書店

文明の越境 西欧とイスラムの新たな邂逅

2000年(平成12年)9月、『思想の言葉』

『思想』、1～3ページ

岩波書店

異文明と共存巡る家族の奮闘を活写「映画、ぼくの国、パパの国」

2001年(平成13年)2月6日

読売新聞夕刊

ヨーロッパ～相関地域研究のフロンティア

2001年3月15日、『地域研究スペクトラム』京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、

22～23ページ

異郷の地でムスリムとして生きる ヨーロッパ都市の隣人たち

2001年(平成13年)7月

『現代日本学原論2、外国人』、61～63ページ

岩波書店

『文明の衝突』回避するために

2001年(平成13年)9月20日

東京新聞夕刊

イスラーム世界 いま何を知らなければならないか

2001年12月

『地理』古今書院、42～47ページ

トルコ人の国民性～国民一丸となって家族が一番、愛妻料理好き

2001年(平成13年)12月

『世界100都市、イスタンブール』、18～21ページ

朝日新聞社

異文化が織りなす不思議空間

2002年(平成14年)1月

『世界100都市、アムステルダム』18～20ページ

朝日新聞社

ベルリンと移民社会～どうして「リトル・イスタンブール」ができるのか

2002年(平成14年)12月

『世界100都市 ベルリン』、23ページ

朝日新聞社

イスラームとの共生～私たちは何を知らなくてはならないのか

2003年(平成15年)3月

『イスラーム社会と文化』2002年度三重大学留学生センター異文化理解講座報告書、
1～23ページ

三重大学留学生センター

トルコの苦悩、北イラクの油田米英統治に

2003年(平成15年4月4日)

産経新聞

ヨーロッパにおけるイスラーム文化

2003年(平成15年)4月

『国際交流』、2003、99号、58～62ページ

国際交流基金

「帝国」から、いま一度人間への視点を、イラク戦論考

2003年(平成15年4月10日)

東京新聞、中日新聞夕刊

北イラク、「第二のパレスチナ」の危うさ

2003年(平成15年4月29日)

朝日新聞、『私の視点』

48.9.11以降のヨーロッパとイスラーム

2003年(平成15年)5月
中東調査会編『イラク問題と日本人』、102～103ページ
明石書店、261ページ

危険な米国のイラク再建策
2003年(平成15年5月18日)
毎日新聞朝刊、『オピニオン』

Northern Iraq could become second Palestine
2003年(平成15年)5月28日
Point of View, *International Herald Tribune / The Asahi Shimbun*
(「北イラク、『第二のパレスチナ』の危うさ」朝日新聞の英訳)

トルコ～その人と社会の知恵に学ぶ1、基層をなす道德について
2003年(平成15年8月)
アナトリアニュース108号、32～36ページ
日本・トルコ協会

トルコ～その人と社会の知恵に学ぶ2、ストレス回避の知恵
2003年(平成15年12月)
アナトリアニュース109号、30～33ページ
日本・トルコ協会

イラク戦争から一年(上・下)
2004年(平成16年3月18日、19日)
東京新聞・中日新聞

イラク人質事件、4つの疑問
2004年4月9日
産経新聞

人質解放から学ぶこと～映像に翻弄された過剰反応
2004年4月16日
東京新聞

アル・ジャジーラ第一報検証

2004年4月21日

産経新聞

不倫論争とEU

2004年12月

アナトリアニュース

日本・トルコ協会

トルコEU加盟問題の深層

2004年12月24日

産経新聞

(インタビュー記事・座談会等)

インタビュー:「異文化の人間と言葉を交わすと世界が見えてくる」

2001年(平成13年)1月

新しい『学びの場』をめぐって、知のプロデューサー5人へのインタビュー、22～31ページ

研究所報 Vol.24、ベネッセ教育研究所

ベネッセコーポレーション

インタビュー:「イスラム世界との共生をフィールドワークから探る」

2002年(平成14年)1月

『ドリコム アイ』、1・2月号、44～47ページ

日本ドリコム社

インタビュー:「日本は“日本人だけの国ではなくなる”という覚悟が必要だ」

2002年(平成14年)9月

『月刊 PLAYBOY』、117ページ

集英社インターナショナル

座談会:「グローバル・イシューをどう捉えるか」

2002年(平成14年)12月

伊豫谷登士翁編、『知の攻略 思想読本8 グローバリゼーション』

作品社、93 - 120ページ

座談会:「新たな秩序」を地域の側からとらえなおす」

2003年(平成15年)4月

『地域研究論集』Vol.5, No.1, 国立民族学博物館・地域研究企画交流センター、7 - 48 ページ

インタビュー記事:「多国籍社会の針路 第6部私はいこう見る」

2003年(平成15年)6月17日

日本経済新聞・首都圏経済・群馬

インタビュー取材記事:「イスタンブール・テロ事件」

2003年11月19日

産経新聞

インタビュー取材記事:「イラク人質事件の背景」

2004年4月14日

信濃毎日新聞、山陽新聞、神奈川新聞他(共同通信配信)

インタビュー取材記事:「イラク邦人人質事件」

2004年4月12日

読売新聞

インタビュー取材記事:「不可解な点が多い(イラク邦人人質事件)」

2004年4月16日

読売新聞

インタビュー取材記事:「人質事件と自己責任」

2004年5月1日

読売新聞

インタビュー記事:「政府対応にまずさ(イラク邦人殺害事件)」

2004年11月

北海道新聞

インタビュー記事:「ヨーロッパのムスリム移民排斥感情がイスラム13億人の大同団結をもたらした」、16~18ページ

2004年11月25日

SAPIO, 小学館

【翻訳・監訳】

ジョン・エスポジート、内藤正典・宇佐美久美子監訳『イスラームの脅威、神話が現実か』明石書店、平成9年4月、496 ページ

